



基本理念
私達は心の
こもった医療を
行い、地域に信頼
される病院とな
ることを目指し
ます。
独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●先山正二／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

令和3年が新しい時代の 幕開けとなることを願う



NHO 高知病院 院長
先山 正二

令和3年が明けました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

今年もコロナ対策に辛抱強く取り組んで行く必要があります。全国的には第3波の真ただ中で、高知県は一時よりも落ち着いているとはいえ、私たち医療関係者は常にコロナを意識した生活様式の維持が求められていることには変わりはありません。

昨年夏には、南半球でのコロナ流行が比較的落ち着いており、日本でもひょっとすれば、それほどコロナが増えないかもしれないとの楽観的な見方もありましたが、期待外れに終わってしまいました。それどころか、第1、2波よりコロナ陽性者は増加しました。PCR検査数が増えた要因もありますが、陽性率の増加とコロナによる死亡者数の明らかな増加からすると、その状況は一層悪化していると言えます。

1月上旬の時点で世界的にコロナ感染者が9000万人に達したとの報道がなされています。1月中にはその数は1億人を超えるとの予測です。WHOの推計では世界人口77億人の約10%が感染している可能性も指摘されています。

国内でもワクチン接種の開始による期待感がある一方で、感染率が高いとされる変異型ウイルスの流行も大きな懸念材料です。大方の見方では、少なくともあと1年は現在のコロナ禍と対峙してゆくことになりそうです。今後開始されるコロナワクチン接種行政事業に当院としても最大限協力してゆきたいと思います。

このコロナ禍は医療界においても様々な変化をもたらす大きな負の力と正の力となっています。当院では昨年4月からICT（情報通信技術）推進室を設置し、患者さんの利便性と診療上のメリットの向上を目指しています。具体的には、高知あんしんネットへの加入、遠隔診療システムの導入を行いました。また、近々、外来診療におけるAI問診システムの導入を予定しています。今後、これらのシステムの運用実績を積み重ね、メリット、デメリットを評価しつつ、少しでも患者さんと職員に資するものとなるよう地道に取り組んでゆきたいと思います。

このコロナ禍に目処が立ち、ポストコロナの新しい時代の幕開けが訪れることを切に願いたいと思います。

年男としおとこ 年女としおんな



看護部長 矢野 いづみ

新年あけましておめでとうございます。昨年は、COVID-19で人類稀に見る年になりました。当院も、高知県と話し合いを重ね、地域のために貢献できることは何かを模索しながらの手探り状態の1年でした。この1年間で、市中では、ほとんどの方がマスク装着し、いたるところに手指消毒剤が置かれ、3密対策がされるようになりました。院内でも様々な対策がとられ、患者・職員の方々に不自由をお掛けしている状況ですが、皆さん気持ちよく取り組んでいただけたことに感謝しております。2月下旬までには、ワクチン接種開始との報道はありますが、COVID-19の動向もまだまだ不明で先読みが難しい状況です。職員の皆様には、今年も病院の役割を果たすため、冷静に真摯に立ち向かっていくとともに、自分自身と家族の健康を守っていただく行動をお願いしたいと思います。

また、5回目の年女となりました。毎年、新年になると字がきれいになりたいとペン習字の本を買ってみたい、海外旅行をめざし、旅行英語を学ぼうと本を買ってみたい、5年日記をつけようと思ってみたいと、毎年、新しい事を考えますが、何一つ成就したものはありませんでした。今年は、長年の単身赴任も終了いたしますので、是非、ガーデニングを楽しみたいと思っています。今年こそとひそかに決意を抱いています。

皆様にとって2021年が良い年になりますようお祈りしています。



副看護師長 秋山 朝子

新年あけましておめでとうございます。

5階南病棟勤務の秋山 朝子と申します。この度、年女ということで新年のご挨拶をさせて頂くことになりました。

平成12年の療養所と高知病院統合の年に就職し、あっという間に20年が経過致しました。これまで勤めてこれたことは、周囲の皆様のおかげと感謝しております。

今年は、新型コロナウイルスの終息が多くの人々の願いであると思います。当院でも感染予防対策が行われ、入院患者さんに対する面会制限が実施されています。慣れない携帯電話でなんとか会話されている高齢の患者さんや、転院日の一時の再会に涙される姿を目にすることがあります。感染から患者さんを守るために面会制限が必要と思う反面、闘病を支えるご家族や、患者さんの回復のためにも面会が可能にならないかと願っています。

多くの人々の日常が変わってしまった2020年でした。2021年は、明るいニュースを心待ちにし、新型コロナウイルスと闘い、看護師として患者さんやご家族を支えていきたいと思っています。



臨床検査技師 高松 慈

皆様、明けましておめでとうございます。臨床検査科の高松 慈です。私も今年で三度目の丑年を迎え、新年の抱負をほげい船に書かせて頂きます。

私が高知病院でお世話になり始め、早9年。広島出身の私ですが、今では患者さんからも「めっちゃ訛っちゅう」と笑われるほど高知県に馴染んでいます。ここまで馴染めたのも高知病院職員の皆さんや高知で得た友人、妻のおかげかと思います。

昨年の1月16日、国内で最初の新型コロナ感染報告から今まで、院内では感染管理に神経を尖らせ、私生活では新しい生活様式に戸惑う毎日でした。そんな混乱の続く中で迎えた丑年ですが、そもそも丑（牛）は十二支の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い動物とされています。しかし、よく働く姿は誠実の象徴とされる事からコツコツ着実に物事を進める大事な年とされています。私も自分が出来る日々の努力の積み重ねで、この国難を乗り切る一助となれるように頑張りたいと思います。

皆様の御健勝と御多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も宜しくお願い申し上げます。



医事係 武田 美慧

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年12月より企画課医事係として勤務させていただいております、武田 美慧（たけだ みさと）と申します。

出身は岡山県で、大学は奈良で4年間学んでいました。初めて高知県に来て、温暖な気候と新鮮でおいしい食べ物に早くも住みよさを感じています。新社会人として働き、慣れないことも多くありますが、日々周囲の方の温かさには支えられながら、今日も頑張ろうと気概をもって取り組んでいます。

牛は、真面目に物事を進め成長を続けることが出来る動物であり、古くから農業などで人々の暮らしを支えてきた動物です。また、丑年は、一步一步着実に物事を進めることが大切な年とも言われます。私自身、日々の業務を一つ一つ積み重ねていき、高知病院を支える一員として、しっかりとした土台を作っていく1年にしたいと考えています。

知識も経験も浅く、まだまだ未熟で至らないところも多いと思いますが、日々勉強し、精進していきたいと思いますので、これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



診療科紹介(消化器内科)



消化器内科医長
林 広茂

消化器内科は内科領域のうち、消化管（食道、胃、小腸、大腸）および肝臓、胆道、膵臓などの疾患を担っています。特に消化管癌の早期発見および治療のため、消化管内視鏡検査には力を入れて取り組んでいます。

私は2019年10月に当科に勤務となり、当初は3名の常勤医師と1名の非常勤医師で診療を行っていました。2020年4月に常勤医師が1名増え、通常の診療に加え、ある程度救急対応なども行えるようになりました。

2020年は新型コロナウイルス感染症により患者さんの受診控えや、感染予防のための学会の指針などもあり十分な検査ができない状況が続きましたが、いまだに終息の見通しが立たず心配されるところです。昨年の内視鏡検査・治療件数を集計しますと、上部消化管内視鏡検査が1539件、大腸内視鏡検査が678件あり、胃癌など胃腫瘍性病変の内視鏡治療が20件、大腸ポリープや大腸癌の内視鏡治療が114件、

総胆管結石の除去や胆管癌・膵癌などによる胆道狭窄に対するステント留置などの胆膵内視鏡検査・治療が160件ありました。その他、上部・下部消化管出血に対する止血術27件、消化管狭窄に対する拡張術やステント留置術10件、内視鏡的胃瘻造設術9件など、総数で2549件でした。2019年が2910件であり、約11%の減少となりました。特に、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言がでていた4月、5月の減少が目立ちました。

内視鏡検査は苦痛や痛みを伴うこともあり、検査を躊躇される患者さんもおられますが、癌の早期発見には内視鏡検査が必須といっても過言ではなく、希望があれば鎮痛や鎮静による内視鏡検査も積極的に行っており、検査を受けていただきたいと思います。医師も一丸となって研鑽を重ねており、安心して検査・治療を受けていただけるものと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。



副看護師長研修を終えて

副看護師長
中嶋 美奈



今回、院内で2日間の副看護師長研修を受講しました。本来であれば、国立病院機構中国四国グループ管内の新任副師長たちが集まる研修でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響で院内での企画開催となりました。

この研修は「国立病院機構の病院運営にあたり、副看護師長の業務遂行上必要な諸事項を学ぶと共に、中間管理職としての能力を開発すること」を目的としています。機構の動向や病院経営、労務管理など普段の業務ではあまり考えることのない内容を学ぶ機会となりました。看護管理者としてどのように病棟を運営することが病院経営に貢献ができるのか、また国立病院機構の動向や看護の動向について学びました。目標をたてるときは、これらのことをきちんと把握した上で先を見

据えたビジョンを持つことが重要だと感じました。また、副看護師長の役割やリーダーシップの基礎とともに、看護部長、副看護部長、教育担当師長から貴重な経験談も聞くことができ、自分や病棟の課題について具体的に考える機会となりました。今回の研修は私を含め3名の受講者がいました。普段はそれぞれ別の部署で働いていますが、意見交換では、悩みや解決策について話すことができ、思いを共有し励みになりました。

今後は、この研修を通して見えてきた自己の課題に対して、計画的に取り組み、日々の業務や病棟運営に貢献できるようにがんばりたいと思います。

看護師のユニフォーム 2色制の導入

副看護部長
森山 万智



看護部では、働き方改革の推進として、厚生労働省令和元年度「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」事例を参考に、日勤勤務看護師の時間

外勤務縮減に着目した取り組みを開始しました。

日勤看護師の時間外勤務の要因には、引継ぎ可能と思われる業務までも時間外勤務して引き受けてしまっている現状がありました。これを解決するには、準夜勤務者に業務をスムーズに引継ぎできる環境をつくり、17:00以降に医師はどの看護師に指示を出せばよいか迷わない環境をつくることが重要と考えました。

そこで、令和2年12月より、夕方勤務終了時刻を過ぎても残っている職員が視覚的に明確となるように、日勤と夜勤でユニフォームを変え2色制にしました。日勤勤務者は従来からの白色を、夜勤看護師はボルドー色のユニフォームを着用します。

この取り組みの効果として、①各勤務者の定時で仕事を終わらせることの意識を高める（タイムマネジメントスキルの向上）

②引継ぎ可能な業務は次勤務に引き継ぐ意識を高める といった職員双方の意識改革となる人的環境改善、時間外の医師指示を誰に出せばよいか一目瞭然とする という物理的環境改善に繋がると考えました。

更に、実際の運用として、職員毎の新規購入とリース契約との費用を比較すると共に、これまでの1色制における洗濯費用を比較し、コスト面に負荷のかからない方法を検討しました。結果、リース契約としました。そして、夜間用ユニフォームは＜中央管理方式＞とし、看護更衣室（男女各々）に準夜開始前の時間帯に各サイズの夜間ユニフォームカートを配置、夜間勤務者は自分のサイズのユニフォームを選び着衣し、勤務へ。洗濯出しは従来の白衣と同様に扱うものとなりました。ユニフォームの補充管理は全て業者によって対応（ICタグをつけ、日々の運用を管理）され、大変スムーズに運用されています。

今後、職員アンケートを行い、取り組みの成果を評価していきます。

以上、当院看護部の試みをご紹介させていただきました。



看護師長会災害机上訓練を実施して



看護師長
濱口 かおり

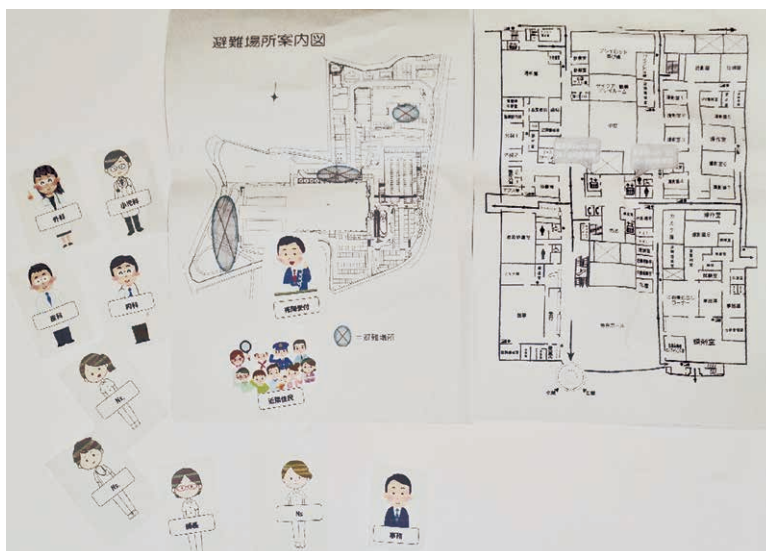
令和2年11月、看護師長会の勉強会で災害時の看護師長の役割について認識を深めるという目的で災害机上訓練を実施しました。

私たち看護師長は当直時、災害発生すれば看護部長の代行者となり、災害本部の立ち上げ看護に関する人員の調整や、病院全体の物資に関した決定を委ねられます。しかし実際の災害時に、「どのように行動したらいいのか自信がない。」と言う声が聞かれた為、当直の時間帯を設定し机上訓練を行うことにしました。

机上訓練のシナリオは11月24日、火曜日 7時05分地震発生マグニチュード8.0 紀伊半島沖を震源で高知市震度6弱、大きな損壊状況はないが断水しているという設定で深夜帯に発生したことにしました。実施してみると、本当の災害時に人員の確保ができるのか？また職員は参集義務があるのを知っているのか？基本的なことから戸惑う場面がありました。また看護師長会の勉強会ではありましたが、事務の方からも協力頂き合同で訓練を実施することができました。まだまだ課題が沢山ありますが、研

修後は各部署で机上訓練を実施することを課題とし、現在各看護師長を中心とし取り組んでいるところです。この取り組みが今後病院全体の災害訓練の実施時にいかすことができたらと考えます。

南海トラフ大地震は今後30年のうちに必ず起こるとされています。日頃からの取り組みが数多くの命を救うことになります。スタッフ1人ひとりが、日々の防災意識を高め、災害に立ち向かえるように、災害拠点病院のスタッフとして自覚を持てるよう関わり続けていこうと考えています。



職員の異動

10月2日付～1月1日付の
人事異動（常勤）



採用

- ▶ R2.12.1
一般職員（医事係） 武田 美慧
- ▶ R3.1.1
臨床検査科医師 金川 俊哉

- ▶ R3.1.1
作業療法士 小松 ゆうか

退職

- ▶ R2.11.16
看護師 山本 正子

- ▶ R2.12.31
医事係 紙本 歩実
看護師 森本 昌
看護師 小崎 啓子

栄養管理室だより

ご出産お祝い膳のご紹介



栄養管理室長代理
永野 由香里

当院ではご出産されたお母様を心づくしのおもてなしでお祝いしたい、そんな思いから《ご出産お祝い膳》の提供をさせていただいております。提供は、月曜日から金曜日（祝日除く）の夕食となっており当院の調理師が心をこめて手作りしたお料理やデザートにメッセージカードを添えて、管理栄養士がベッドサイドまでお持ちしています。

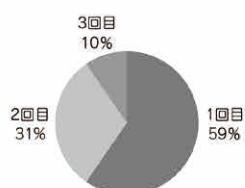
メニューはアンケート結果等を参考に、ステーキ等の定番メニューをはじめとして季節の食材を取り入れたメニューを彩りや盛付・デザートなどにも配慮して提供するように心がけています。

ご出産の記念として、皆様の当院での思い出のひとつになれば幸いです。

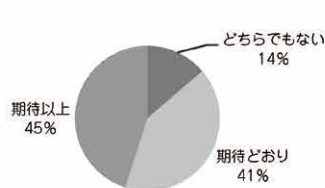


❖ お祝い膳アンケート結果より（令和2年8月～10月実施：回答人数…52名）

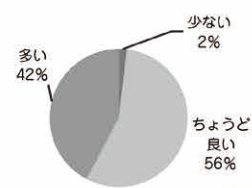
Q1. 当院でのご出産は何回目ですか？



Q2. お祝い膳はいかがでしたか？



Q3. お祝い膳の量はいかがでしたか？



Q4. お祝い膳について10点満点で評価すると何点ですか？（平均点を提示）

◆味付け…9.3点 ◆全体量…9.6点 ◆温度…9.4点 ◆色彩…9.7点



❖ 患者さんからのご意見

- いつもおいしいご飯をありがとうございます。出産の良き思い出です。
- 2年前のお祝い膳より彩りが良くなっているように感じました。
- 食べきれなかったけど豪華な感じで素敵だった。
- タルトが美味しかったです。 etc.



❖ 出して欲しいメニュー

お刺身、ハンバーグ、和風デザート
（わらび餅、クリーム大福）、コーヒー
紅茶 etc.

衛生面等を考慮しながら提供可能な範囲ではありますが、今後も患者さんのご要望にお応えできるよう努めてまいります。

感染管理室だより

新型コロナウイルス感染症の 感染リスクが高まる「5つの場面」について



感染管理室
高木 さくら

10月1日より、感染管理室に配属となりました高木さくらです。高知病院に来てから、6階南病棟、3階南病棟での勤務を経験し、今回初めて病棟を離れての勤務となりました。現在、院内感染対策チームのメンバーと共に病棟全体の感染管理を総括するための活動をおこなっています。今まで病棟勤務の経験しかなく、知識・経験不足から、現場からの相談や職員の職業感染防止対策などの対応に時間を要し、ご迷惑をおかけしています。河村感染管理認定看護師に指導いただきながら日々感染管理について勉強しているところです。

現在、新型コロナウイルス感染症が県内でも拡大しています。3密（密閉・密集・密接）を避けることはもうみなさん身についていることと思いますが、新たに厚生労働省より感染リスクが高まる「5つの場面」の提言がされています。

場面① 飲酒を伴う懇親会等：飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下します。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすくなります。回し飲みや箸の共有は感染リスクを高めるのでやめましょう。

場面② 大人数や長時間に及ぶ飲食：長時間に及ぶ飲食、その後の2次会や3次会など、短時間の食事と比べ感染リスクが高まります。大人数での飲食は大声になり飛沫が飛びやすくなります。

場面③ マスクなしでの会話：マスクなしに近距離で会話をすることで飛沫による感染リスクが高まります。カラオケなどのクラスターが発生しています。車やバスで移動する際の内でもマスクを着用しましょう。

場面④ 狭い空間での共同生活：狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まります。寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されています。

場面⑤ 居場所の切り替わり：休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により感染リスクが高まることがあります。休憩室、更衣室での感染が疑われる事例が確認されているので気を付けましょう。

一人一人が感染リスクが高まる行動を避けて、正しく対策を行っていただくことが何よりも重要となります。それにより感染者数が少なくなり、医療現場の負担が緩和されることが期待できます。感染を拡げないためのご協力をよろしくお願いします。

医療安全管理室だより

5S活動報告を終えて

医療安全管理係長
山本 三恵

当院では医療安全管理活動として毎年5S活動に取り組んでいます。5S活動とは「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の5つの頭文字をとっているもので、民間企業、特に工場などでは1980年代から積極的に取り入れている手法です。必要以上に物を置かない。誰でもすぐ分かる場所に物を置く、更に常に清潔に保つということを続けることで、探す手間を省いて作業効率を上げたり、不良在庫を抱えないためのコストを下げたりすることができ、最終的に企業の経済効率を高めるという効果があります。

医療の分野で考えると、コスト削減のほかに、物の定位置が決まってい、明確に表示されていることは物を取り出すときに誤って違う物を取り出すという危険の回避に繋がります。そして、誰でもすぐ分かる場所におくということは、緊急時に必要物品を取り出すときにその効果が発揮されると思います。整理の中には

医療機器の整理点検の内容も含まれ、医療機器の不具合による事故防止に繋がります。また、清掃・清潔は感染防止という観点から医療現場では重要なことと言えます。

このような取り組みを、6月～8月までの3ヵ月の間に各部署で検討・実施し、結果を9月に報告をしました。今年度も22の部署が5S活動に参加し、その活動報告は、成果を称えるために投票を行い、投票結果の3位までは10月下旬まで1階受付ホール前に展示していました。優勝部署は4階北病棟、準優勝部署はNICU、3位は6階南病棟でした。これらの結果を、職員の医療安全に対する思いや、取り組みをより多くの方に知っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、5S活動にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

2020年度 5S活動報告 投票結果上位3部署はこちら

優勝(4北病棟)

準優勝(NICU)

3位(6南病棟)



今年は看護部が
強かった…



看護学校だより

1年生 (58期生)

基礎看護学実習Iを終えて

看護学校
月原 亜紀

令和2年11月24日から12月3日の7日間、第58期生は初めての臨地実習となる基礎看護学実習Iに臨みました。基礎看護学実習Iでは、対象者と対象者を取り巻く生活環境を理解し、コミュニケーションを通し対象者に合わせた日常生活援助を考え実践し、看護師の役割を学ぶことを目的としています。

初日は緊張し笑顔も口数も少なかった学生たちですが、受け持ち患者さんが優しく受け入れてくださり、病棟のスタッフの方々から熱心な指導を受けて、徐々に自然な笑顔が生まれてきました。看護師と一緒に日常生活援助を実施し、学校で習った看護技術の方法を応用して、患者さんの要望や好みに合わせて看護援助を行う難しさに直面しつつ、患者さんに合わせた方法を考えて実施することの大切さを実感したようでした。その日学んだことをグループで共有し、実習指導者から助言・指導をいただくことで、他者の学びを自分の受け持ち患者さんにとってはどうだろうと置き換えて考え、更にグループで協力することで看護の考え方が広がることを実感していました。

実習が終了し5日後には、実習を終えての振り返り発表会を行いました。所定のA3用紙1枚を十分に活用して資料にすることは難しかったようですが、実習での経験を意味づけ、まとめていました。学生は自分の看護実践をしっかりと振り返ることや患者さんの変化を見逃さないように観察することなどが、看護実践をする上で重要だと学びっていました。

今回の実習では、患者さんとの関わりや看護する看護師の姿から、看護の楽しさを知り学習意欲につながったようです。「看護することが楽しい」と思える、学生の中で芽生えたこの思いを絶やさないよう大事に育てていきたいと考えています。

実践しながら学生なりに、いろいろと考えています。



～実習振り返りの会資料 一部抜粋～

よい、爪切りをしよう!!
でも、肥厚している爪を切りやすくなるために手浴をしよう!!

(実践) ベッドサイドで端座位の状態を実施
→排泄直後で端座位になってから、
→排泄に安定性も見られたため。

手浴開始5分後
自分へ援助の時に集中してしまっていることに気づく!

①「姿勢どうですか?きつくないですか?」②「大丈夫」⇒無表情
③「温度熱かったり寒かったりしませんか?」④「うん、気持ち良い」
⇒笑顔が見られる

10分後
⑤「〇〇 笑顔が見られたから、本日から出た言葉だね」

15分中
⑥「〇〇 あ!! 体が少し右に傾いている?」
⑦「ボーンとした表情」
⑧「〇〇 もしかすると 体勢が辛いかも?」
⇒非言語的コミュニケーションを介して患者さんの異変、要望に気づくことができる

⑨「姿勢しんどくなりましたか? ベッドに横になったらできそうですが、どうしよう?」
⑩「横になろうか」
⇒質問や提案を具体的にすることで患者さんが理解し、発言しやすくなる

地域医療連携室だより

「患者の意向を尊重した 意思決定のための相談員研修」 を受講して



看護師長
西本 美香

人生の最終段階における医療・ケアについては、医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされたうえで、十分な話し合いを行い、患者さん本人の意向を尊重して決定することが重要となります。今回、「患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修」を受講し、相談員として患者さんの思いを引き出し、支援できるような関わりをするために必要な知識と、方法を学ぶ機会を持ちました。

研修では、「人生に最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づき、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について学びました。ACPとは、人生の最終段階の医療・ケアについて、患者・家族と医療・ケアチームが、事前に繰り返し話し合うプロセスになります。患者さんの意思は日々変化し得るものなので、医療・ケアの方針についての話し合いは繰り返し行うこと、患者さんが自分の意思を伝えられない状態になった場合でも、家族等の信頼できる方と繰り返し話し合っておくことが重要であると学びました。ロールプレイでは、高齢の患者役になり、患者の気持ちを体感する中で、医療従事者との対話で、自分の生活と希望をすりあわせ、自分の意思を決定する経験ができました。患者の方針について検討するグループワークでは、多職種が専門的な意見で話し

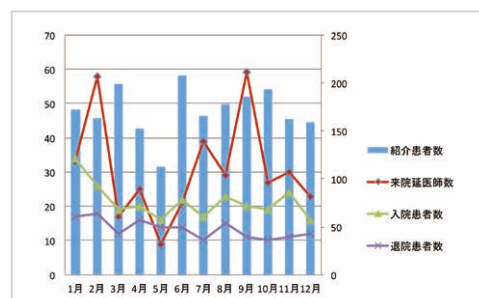
合いを行うことの重要性を学ぶことができました。

今回の研修を受講し、退院支援で関わった患者さんのことを思い出しました。患者さんが、「自宅に帰りたい」と希望があり、少しでも自宅で過ごせるように在宅調整しましたが、調整に時間がかかったため病状が悪化し、結局、数時間の外出をすることしかできませんでした。この事例は、多職種で検討することができなかったことで、自宅退院のタイミングが遅れてしまったと考えています。看護だけでは対処しきれないことも、多職種で検討していくことで専門的な意見が統合し支援することが可能になったのではと心残りです。このことから、ACPのチームの立ち上げが、患者支援を充実していくための課題と考えます。

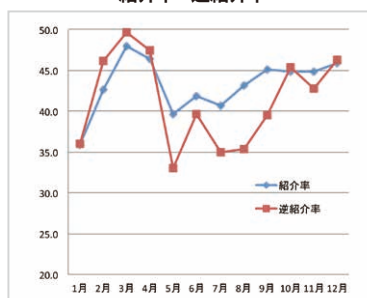
人生の最終段階までその人らしい暮らしを続けられるように支援をするために、医療従事者は、患者・家族に病状説明や今後の見通しなどの適切な情報提供が必要です。その上で、患者さんにとっての最善について繰り返し話し合えるよう、多職種で情報共有を図っていくことの重要性を再認識しました。今後は、居宅介護支援事業所や訪問看護など在宅を支える方と、情報共有し、継続看護の充実に取り組んでいきたいと思っています。

高知病院地域連携等概況

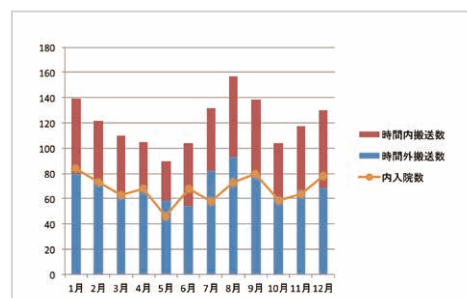
オープンシステム利用状況



紹介率・逆紹介率



救急搬送受診者数



外来診療担当医表

(令和3年1月1日現在)

■受付時間 8:00～11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<http://www.kochihp.com>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前 1診 ⑫	岩原 義人	山崎 隆志	井上 修志	篠原・竹内 (隔週)	
	特別外来 ⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来			化学物質過敏症(予約制)		
神経内科		不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午前 1診 ⑧	岡野 義夫	竹内 栄治	畠山 暢生	竹内 栄治	門田 直樹
	2診 ⑥		安宅 克博	近藤 圭大	町田 久典	畠山 暢生
	3診 ⑫					
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00～15:30(予約制)	
消化器内科	午前 ⑨	林 広茂	池田 敬洋	高橋 早代	高橋 拓	池田 敬洋
循環器内科	午前 ⑦	山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 ⑦			伊藤 いつみ 受付13:30～16:00	ペースメーカー (第2木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)				松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前 1診 ①	大石 尚文	大石 尚文	井上 和男	小倉 英郎	大石 尚文
	2診 ②	佐藤 哲也	濱田 朋弥	佐藤 哲也	佐藤 哲也	高橋 芳夫
	3診 ③	井上 和男	濱本 諒	小倉由紀子	井上 和男	
	午後 専門外来	慢性疾患 アレルギー	神経・アレルギー 循環器(第2火曜 医大循環器)	乳児健診	アレルギー NICUフォローアップ	慢性疾患 乳児健診
	予防接種	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)	14:00～16:00(予約制)
外科 消化器外科 小児外科	午前 ⑤・⑥	浅野間 理仁 (ヘルニア外来も実施)	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	金本 真美 (肝臓・胆道・膵臓外来)
	午後 専門外来		福山 充俊 (乳腺外来)		福山 充俊 (乳腺外来)	
呼吸器外科	午前 ⑧		先山 正二		先山 正二	先山 正二(予約制)
	⑦		日野 弘之 診察開始 9:30～		日野 弘之	
乳腺科	午前 ⑤	本田 純子		本田 純子		
	午後 ⑧			本田 純子 受付15:30まで		本田 純子 受付15:30まで
整形外科	午前 ①	福田 昇司 (予約制)		川口 真司	福田 昇司	合田有一郎
	②	川口 真司				
	午後 ②	骨粗鬆症 13:00～15:00(予約制)			田村 竜也 (予約制)	
脳神経外科	午前 1診 ⑧			非常勤 診察時間 9:00～11:00(予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい		
皮膚科	午前 ⑬	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前 1診 ⑨	島本 力 診察開始 9:00～	医大医師 診察開始 9:00～	医大医師 診察開始 9:00～		島本 力 診察開始 9:00～
	2診 ⑦					石黒 基純 診察開始 10:00～
産科	午前 ③⑤	滝川 稚也	滝川 稚也	今泉 絢貴 1ヶ月検診	今泉 絢貴	産科特殊外来(予約制)
	午後					
婦人科	午前 ③①	木下 宏実	今泉 絢貴	木下 宏実	滝川 稚也	木下 宏実
	午後		クーポンがん検診 (予約制) 10:30～11:30		クーポンがん検診 (予約制) 10:30～11:30	思春期外来(予約制)
眼科	午前 ②③	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前 ⑬	中野・武田	中野・武田	中野・武田	中野・武田	中野・武田
放射線科		塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文

※ 市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中 外科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外科までお問い合わせください。

※ 当日の受付は午前11:00までとなっております。